

被災してからもスクールプログラムの一環で出張授業などのアウトリーチ活動を行っています。今日は1日、市内の小学校で勾玉づくり体験を行いました。

8:45 事務所を出発



10:00 午前の部 開始

10:05 「勾玉」についてレクチャーをする

10:10 「勾玉」の作成開始

11:40 「勾玉」作成終了



12:00 午前の部 終了

12:10 お昼休憩

13:30 午後の部 開始

長方形の石をやすりで削って自分のイメージしている勾玉の形にしていきます。



13:35 「勾玉」についてレクチャーをする

13:40 「勾玉」の作成開始

15:30 「勾玉」作成終了



16:00 午後の部 終了

16:30 事務所に到着

勾玉作り教室では、勾玉について学びながら、滑石を削ってそれぞれ自分のイメージする勾玉を作ります。石を削って立体的に作る作業は子どもたちから「難しい」という声も出ますが、自分だけのオリジナル勾玉が出来上ると、「楽しかった」と笑顔で持って帰る参加者が多く見られます。小中学生問わず、一緒に参加する家族の方や学校の先生など、多くの人に楽しんでいただいて、被災後もアウトリーチ活動を通じて市民の方々と繋がる機会がある事を学芸員としてうれしく思います。

Column コラム

学芸員のある一日 ● 定森裕太郎

出張授業がある日は道具や模型といった資料を車に積んで、小学校に向かいます。この日は出張授業から戻った後、収蔵品レスキューの作業に入りました。

9:00 出張授業



授業では小学4年生に二ヶ領用水の成り立ちや変遷、関わった人物について説明します。また、鉢・箕・もっこ・蛇籠を用いた体験学習を行います。

12:00 事務所に到着

13:00 レスキュー活動

古文書レスキュー 解体の作業

封筒に入った資料を取り出して、1枚づつにしています



基本的にレスキューの作業を収蔵資料の解体、洗浄、乾燥、撮影の順で行います。解体作業は一番難しいです。

16:00 レスキュー活動終了

出張授業での資料を見たり、触れたりする体験は子どもたちの学びを深める機会になると思います。この授業をきっかけに川崎の発展の歴史を感じ、地域への興味・関心が広がってほしいという願いで取り組んでいます。

また、収蔵品のレスキューを行うことも私たちにとってはとても重要な仕事です。レスキューの活動は、収蔵品を保全していく上で、不可欠な作業だと思います。

Column コラム

学芸員のある一日 ● 渡部仁美 ツエンカ・ディミニドロヴァ